第１回　美波町総合計画審議会

審議・報告事項資料

平成 19 年 9 月 4 日

資　料　目　次

（１）総合計画の概要【資料①】……1

（２）総合計画審議会の位置づけ【資料②】……2

（３）町民意識からみた意向（アンケート調査結果報告）【資料③】……6

（４）データにみる本町の位置づけ（現状分析結果報告）【資料④】……16

資料①

（１）総合計画の概要

●計画の位置づけと構成

総合計画は、まちづくりの最も上位に位置づけられる行政計画で、長期展望に立った計画的、効率的な行政運営の指針となるものです。

計画は「基本構想」と「基本計画」の２階層で構成され、策定後は、「実施計画」により、計画の実現に努めます。

総合計画

基本構想 ・・・ 【将来都市像】

- 将来像と基本目標
- 主要指標
- 施策の大綱
- 重点プロジェクト

目標年次に向け、美波町の望ましい将来像と目標実現のための施策の大綱を示し、まちづくりの長期指針となるものです。（長期）

基本計画 ・・・ 【施策の方向】

- 分野別主要施策

基本構想で示された将来目標を達成するための具体的施策について体系化したもので、実施計画の基礎となるものです。（中期）

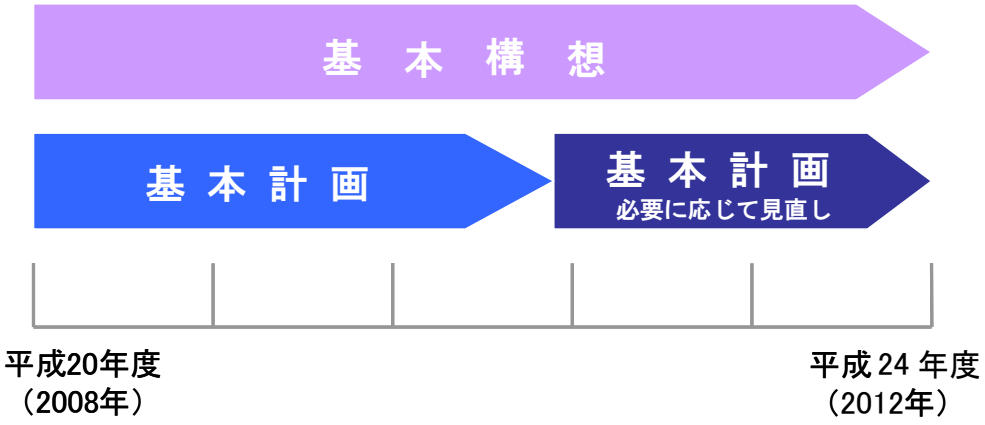
実施計画 ・・・ 【具体的事業化】

- 分野別事業計画

基本計画に盛り込まれた諸施策について、実際の行政運営の中で具体化する主な事業、事業規模、実施年度を明らかにするもので、各年度の予算編成や事業を実施していくための具体的な指針となるものです。（短期）

●計画期間

計画期間は、平成 20 年度（2008）から平成 24 年度（2012）までの５年間とします。なお、基本計画は、前後期３ヵ年とし、必要に応じて見直しを行います。



資料②

（２）総合計画審議会の位置づけ

●審議会設置の目的

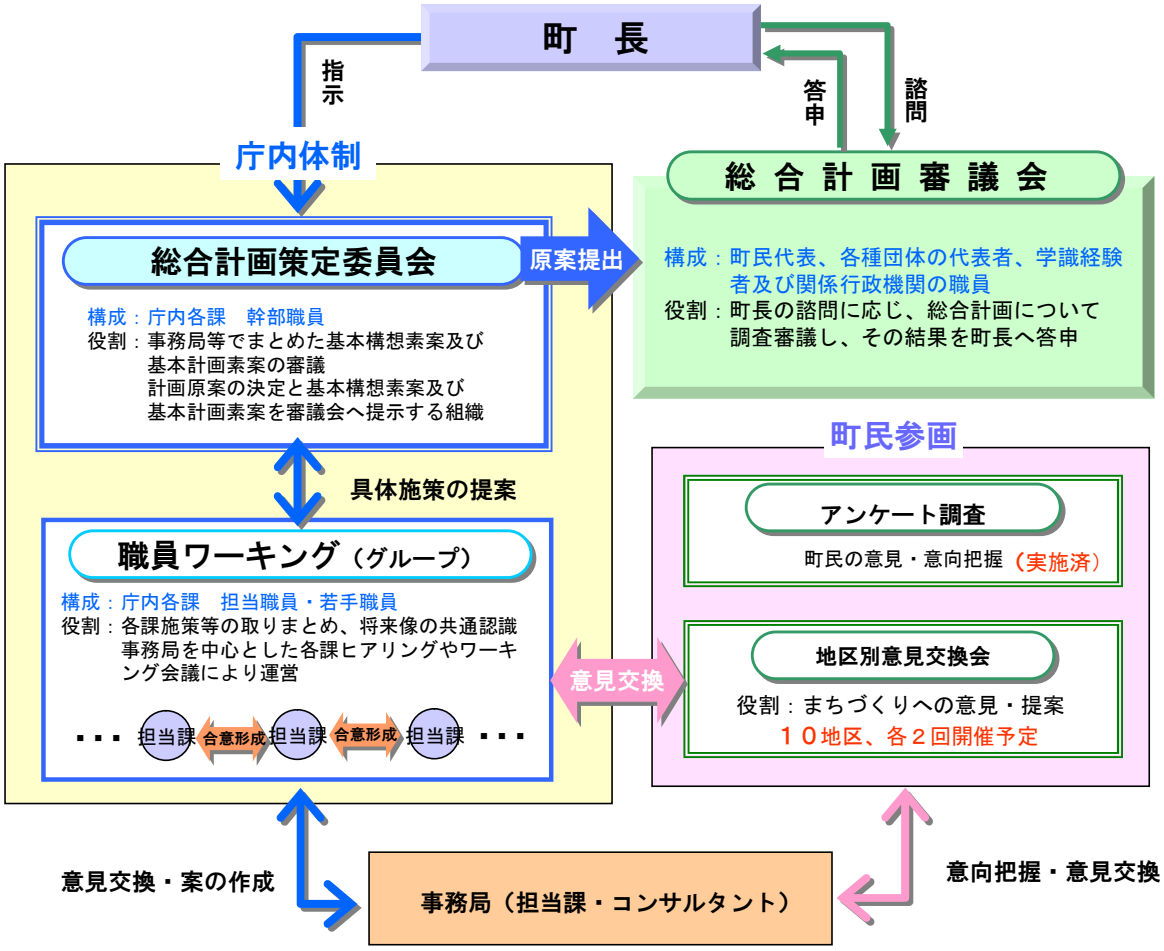
各界各層から幅広く集まった委員の専門性や分野別の見識に加え、町民の視点に立った意見や要望を答申していただくことを目的として設置するものです。

●審議手法（検討イメージ）

町民意見、庁内の意見を集約・調整した「基本構想」及び「基本計画」の素案を基に、審議を重ねていただきます。審議後、町へ答申を頂き、その答申を受け町議会の決議を経て総合計画を策定します。

なお、審議の内容は、審議会ごとに会議録を作成し、ホームページ上で公開する予定です。また、審議会への一般者の傍聴を認めます。

ただし、当該会議を公開することにより、公正かつ円滑な議事運営に著しい支障が生ずると認める場合については、審議会での決議にて会議の非公開を決定できることとします。



●参考：町民参画手法

総合計画審議会委員として、町民代表、各種団体の代表者等に参画いただく他、アンケート調査及び地区別意見交換会にて町民参画による計画策定を進めます。

■アンケート調査による住民意向把握（平成 19 年 2 月実施）

⇒　○住民意見からの課題の抽出

○住民総意としての満足度・まちづくりの方向性等の把握・反映

調査項目		中学生アンケート	出身者アンケート	住民アンケート
対象者		美波町内の中学校に在学の学生	美波町出身で、現在、町外に住まわれている方	美波町内に在住の方
配布数		240 票	70 票	7000 票
回収数		216 票	52 票	5,195 票
回収率		90.0%	74.3%	74.2%
配布回収方法		町内の中学校に依頼し、配布・回収	郵送による配布・回収	自治会に依頼し、配布・回収
調査項目	質問1	属性（性別、居住地）	属性（性別、年齢、出身地、現在の居住地）	属性（性別、年齢、居住年数、居住地、家族構成、職業、通勤・通学先、住宅形態）
	質問2	美波町の印象について	美波町の印象	美波町の住みやすさについて
	質問3	進学や就職の方向性	美波町に戻る割合	美波町への定住意志について
	質問4	就職する時に希望する勤務地	美波町に戻る予定	定住意志に関する理由
	質問5	将来、最終的に暮らしたい場所	美波町で暮らす場合、特に望むもの	美波町に対する、「現在の満足度」「今後のまちづくりにおける重要度」
	質問6	親との同居について	美波町を案内する場所など 周辺市町で案内する場所など	高齢者や障害者福祉の充実
	質問7	美波町内を案内する場所、見せたいもの、食べさせたいもの	美波町に関する情報を得る機会	定住化の促進
	質問8	美波町にあったらよいと思うもの	情報を得る方法	農林水産業の振興
	質問9	重視すべき「まちづくりの視点」	重視すべき「まちづくりの視点」	少子化対策
	質問 10	キャッチフレーズについて	自由意見	安心・安全のまちづくり
	質問 11	自由意見	－	重視すべき「まちづくりの視点」
	質問 12	－	－	親しみのもてる役場にするために
	質問 13	－	－	住民活動への参加状況と今後の参加意志
	質問 14	－	－	美波町の花・木・鳥
	質問 15	－	－	自由意見

■タウンミーティング形式による地区別意見交換会

⇒　○住民の生の声の聴取・反映　　○各種行政情報の提供

　　○まちづくりなどに関する意識啓発　　○住民と行政の連携促進

① **開催の単位**　：１０地区程度

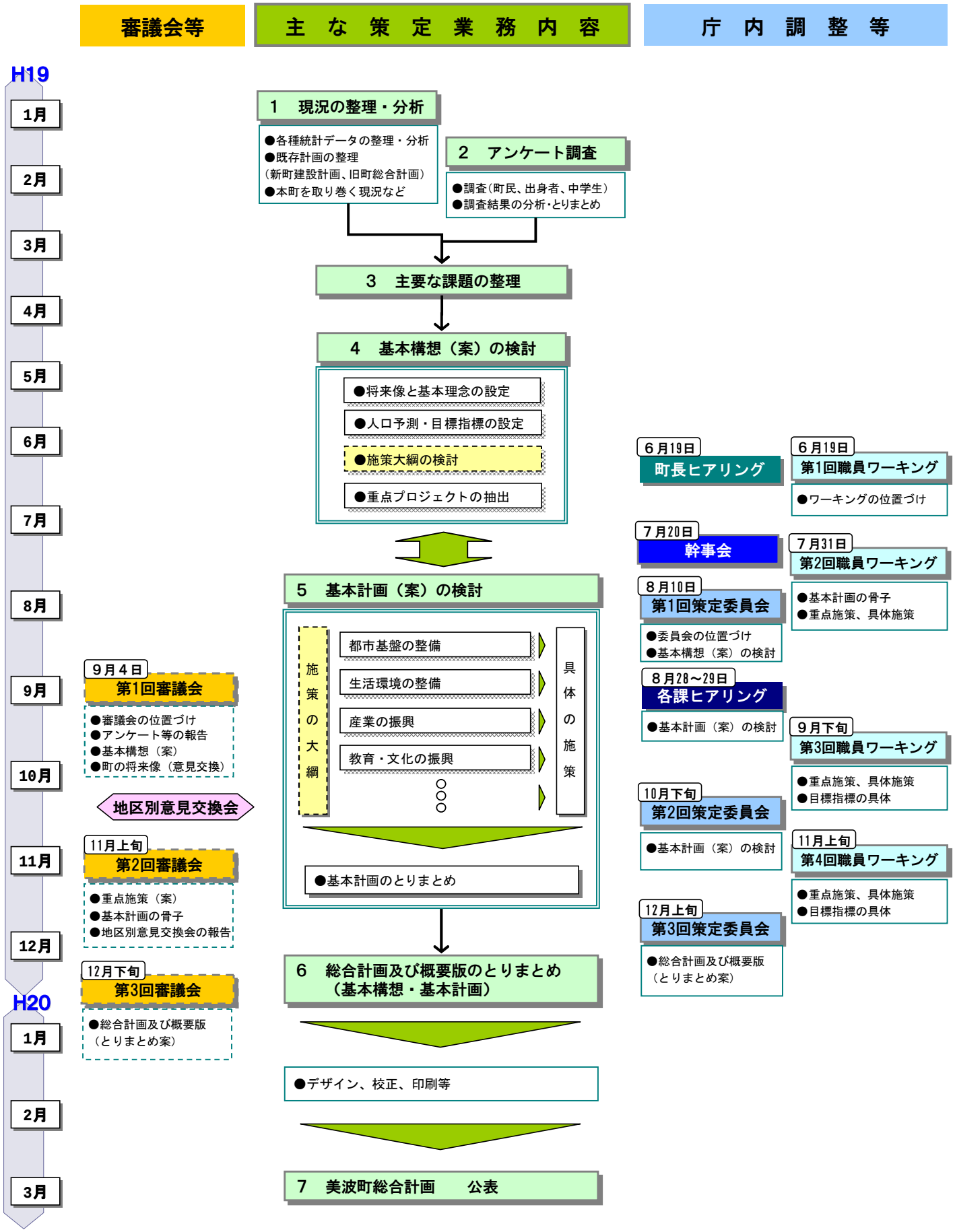
② **参加者**　：町内会長、町内会役員の他、
回覧やチラシによる一般住民への参加募集が主体

③ **行政側**　：町長、副町長、幹部職員、事務局（総務企画課）

④ **開催回数**　：各地区１回程度

⑤ **開催イメージ**

●美波町総合計画策定フローと審議会開催スケジュール



資料③

（３）町民意識からみた意向（アンケート調査結果報告）

１）アンケート調査の概要

①調査趣旨

本町の今後 10 年間のまちづくりの方向性を示す「美波町総合計画」の検討を進めていく上で、町民の意見を計画に反映させた、将来に夢の抱けるまちづくりを進めていくために、アンケート調査を実施しました。

②アンケート調査の種類

○実施時期　平成１９年２月１日～２月１９日

表 1-5　アンケート調査実施概要

調査項目	中学生アンケート	出身者アンケート	住民アンケート
対象者	美波町内の中学校に在学の学生	美波町出身で、現在、町外に住まわれている方	美波町内に在住の方
配布数	240 票	70 票	7,000 票
回収数	216 票	52 票	5,195 票
回収率	90.0%	74.3%	74.2%
配布回収方法	町内の中学校に依頼し、配布・回収	郵送による配布・回収	自治会に依頼し、配布・回収

２）まちの魅力

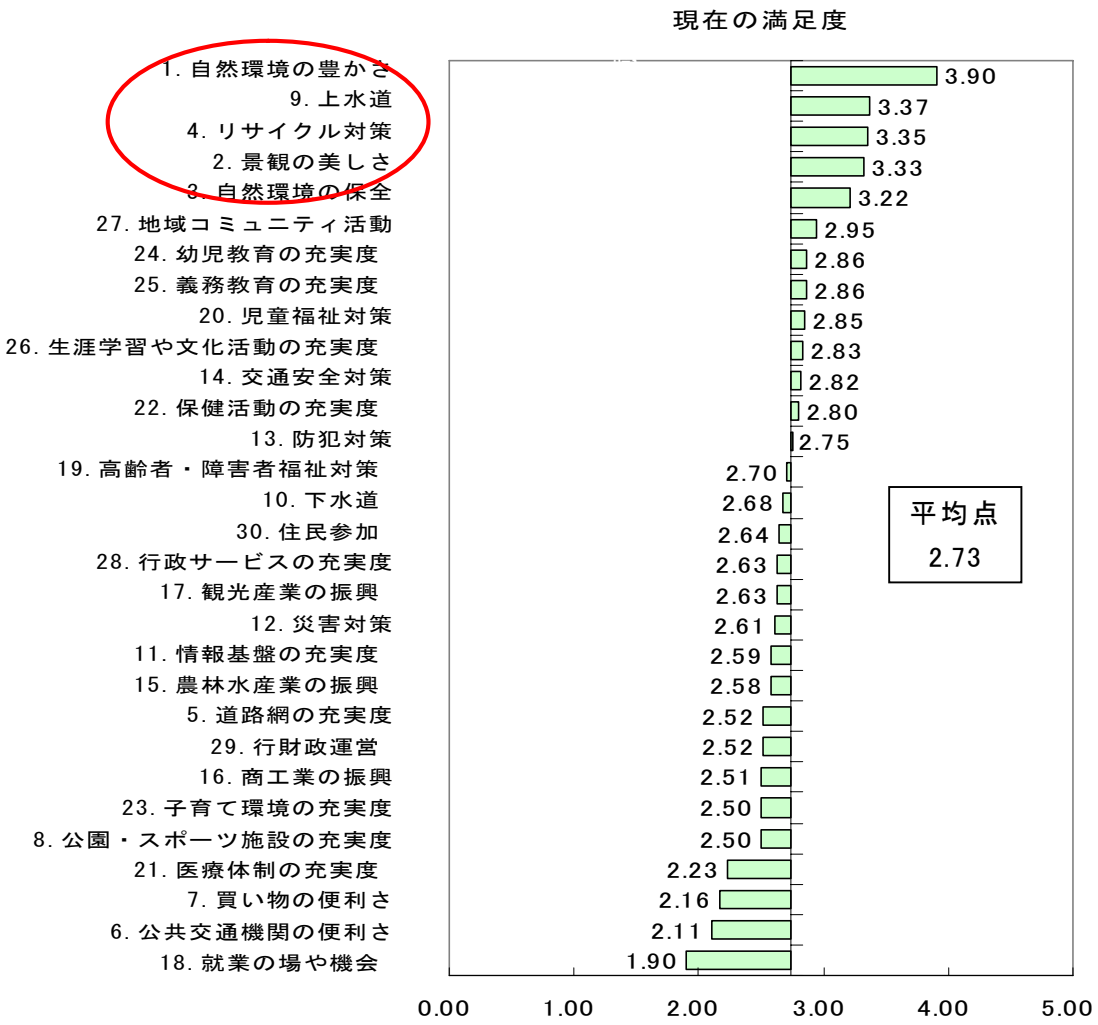
美波町の魅力に関連する質問項目における上位意見を以下に整理しています。

「現在の満足度」の上位項目（平均点 2.73）：住民アンケート

○自然環境の豊かさ（3.90）　○上水道（3.37）

○リサイクル対策（3.35）　○景観の美しさ（3.33）

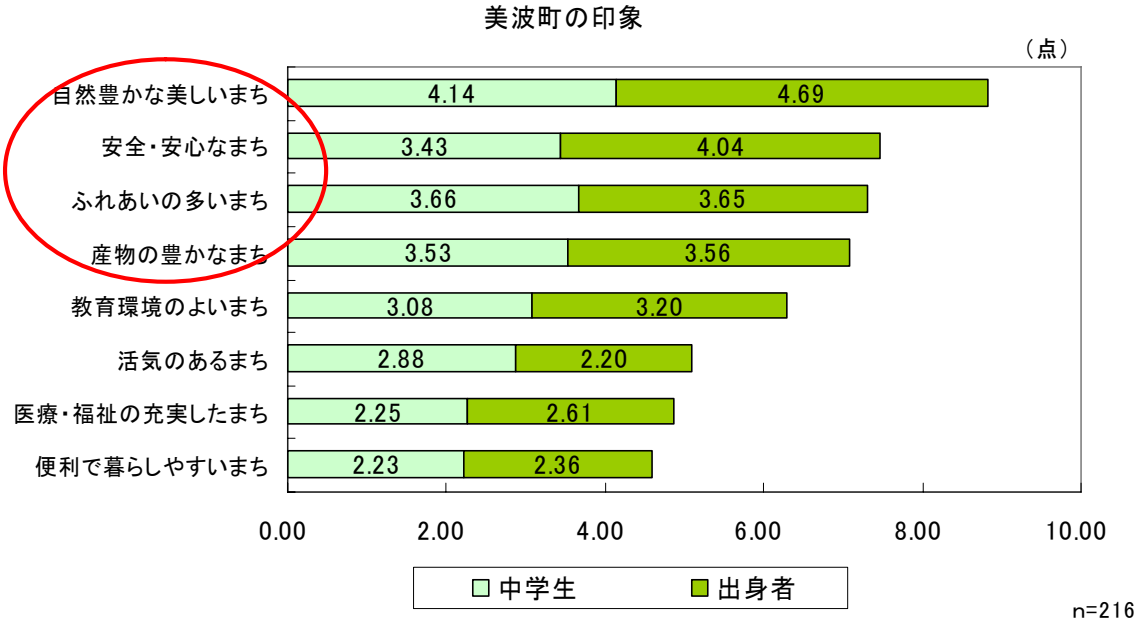
○自然環境の保全（3.22）



満足度（30 項目）について、「満足；5 点、やや満足；4 点、普通；3 点、やや不満；2 点、不満；1 点」の点数をつけました。平均点は 2.73 点でした。

「美波町の印象」の上位項目：中学生・出身者アンケート

○自然豊かな美しいまち　　○安全・安心なまち
○ふれあいの多いまち　　○産物の豊かなまち



美波町の印象（８項目）について、「そう思う；５点、多少思う；４点、ふつう；３点、さほど思わない；２点、思わない；１点」の点数をつけました。なお、８項目全体での平均点は、中学生；3.1点、出身者；3.3点でした。

「美波町内で案内する場所」などの上位項目：中学生・出身者アンケート

◆案内したい場所　；○薬王寺　　○大浜海岸　　○田井ノ浜
◆見せたい祭り等　；○四季折々の祭り　　○ウミガメに関するイベント
◆食べさせたいもの；○豊富な海の幸　　○郷土料理

以上の結果から、

★自然環境の豊かさ・美しさ　　★豊富な海の幸
★ふれあいの多いまち　　★安全・安心なまち

などが、アンケート結果からみた「美波町の魅力」として挙げられます。

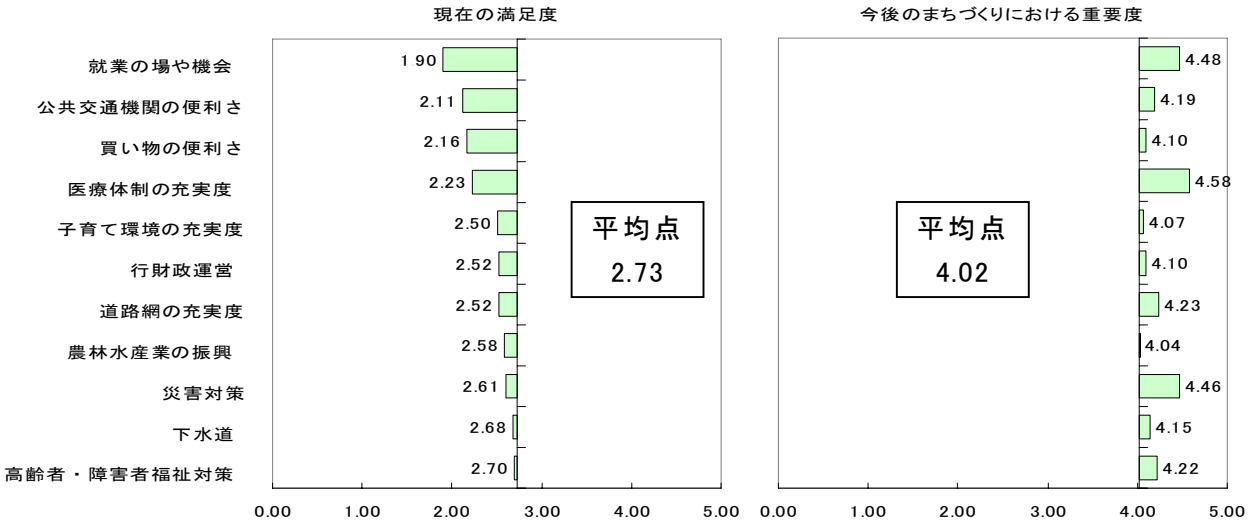
３）まちづくりの課題と重要施策

①満足度と重要度からの分析

≪満足度は低く、重要度は高い項目（11 項目）≫

⇒　今後のまちづくりにおける重要課題として、特に、優先度を重視する必要があると考えられます。

- ■就職の場や機会
- ■買い物の便利さ
- ■子育て環境の充実
- ■道路網の充実
- ■災害対策
- ■高齢者・障害者福祉対策
- ■公共交通機関の便利さ
- ■医療体制の充実
- ■財政運営
- ■農林水産業の振興
- ■下水道



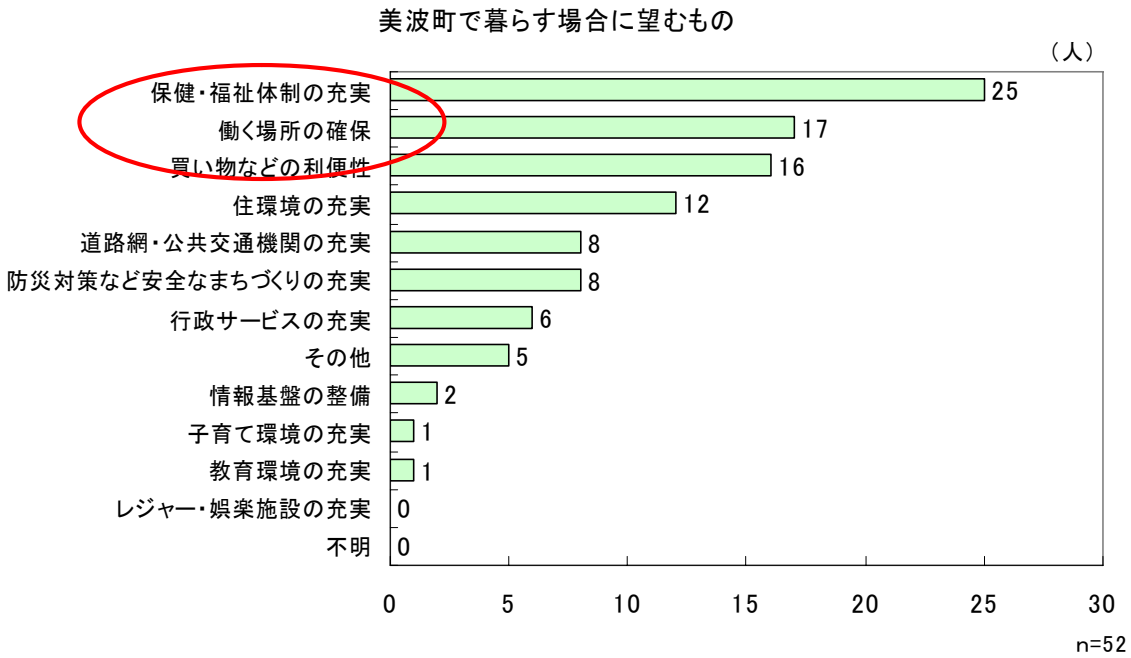
②定住意向からの分析

美波町への定住意向に関連する質問項目における上位意見を以下に整理しています。

「暮らす場合に望むもの」の上位項目：出身者アンケート

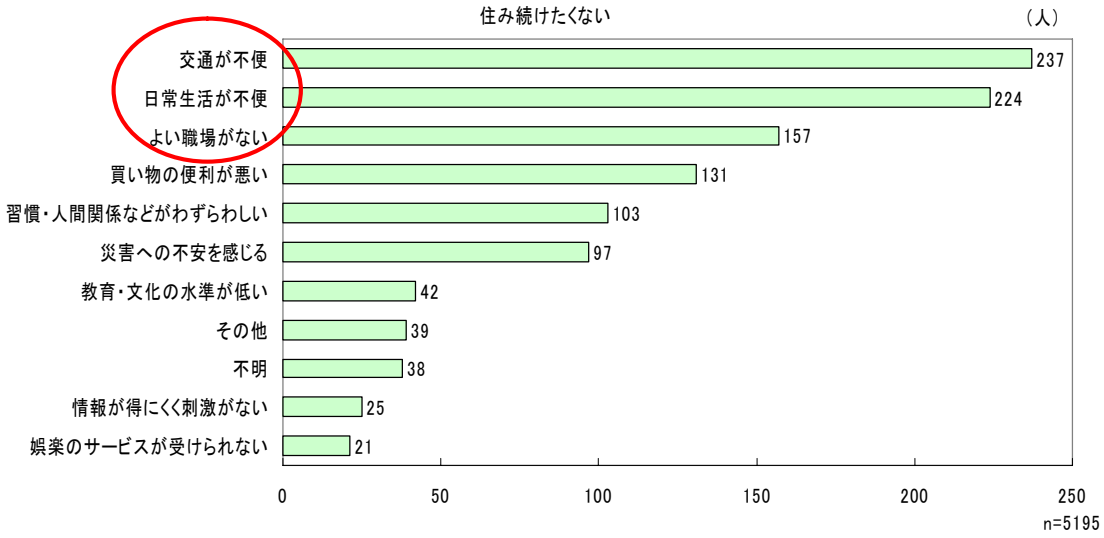
○保健福祉体制の充実　　○働く場所の確保

○買い物などの利便性



「住み続けたくない」理由の上位項目：住民アンケート

○交通が不便　　○日常生活が不便　　○よい職場がない



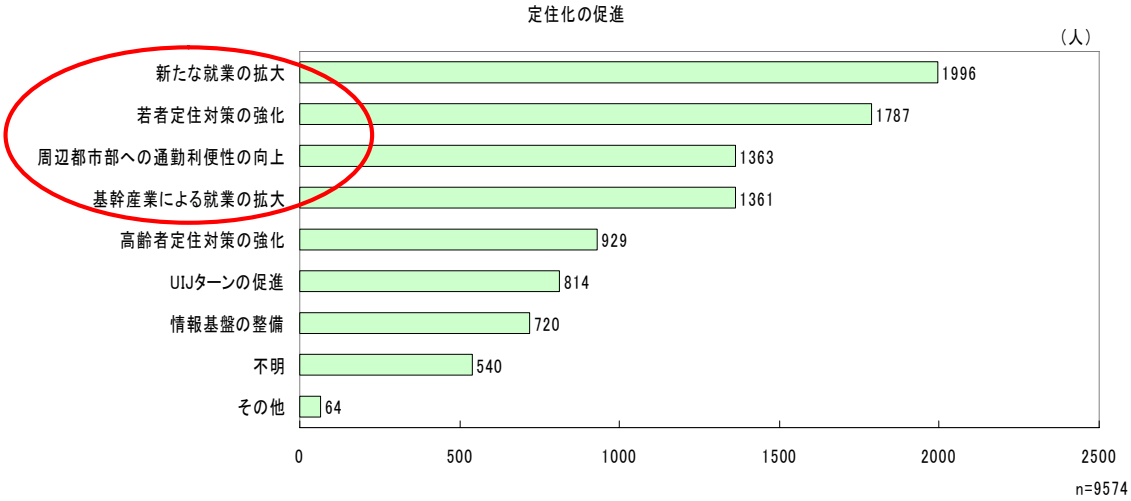
以上の結果から、

■交通の便が悪い　■買い物などの日常生活の便が悪い
■働ける場所が無い

などが、定住化の促進に向けた課題として挙げられます。

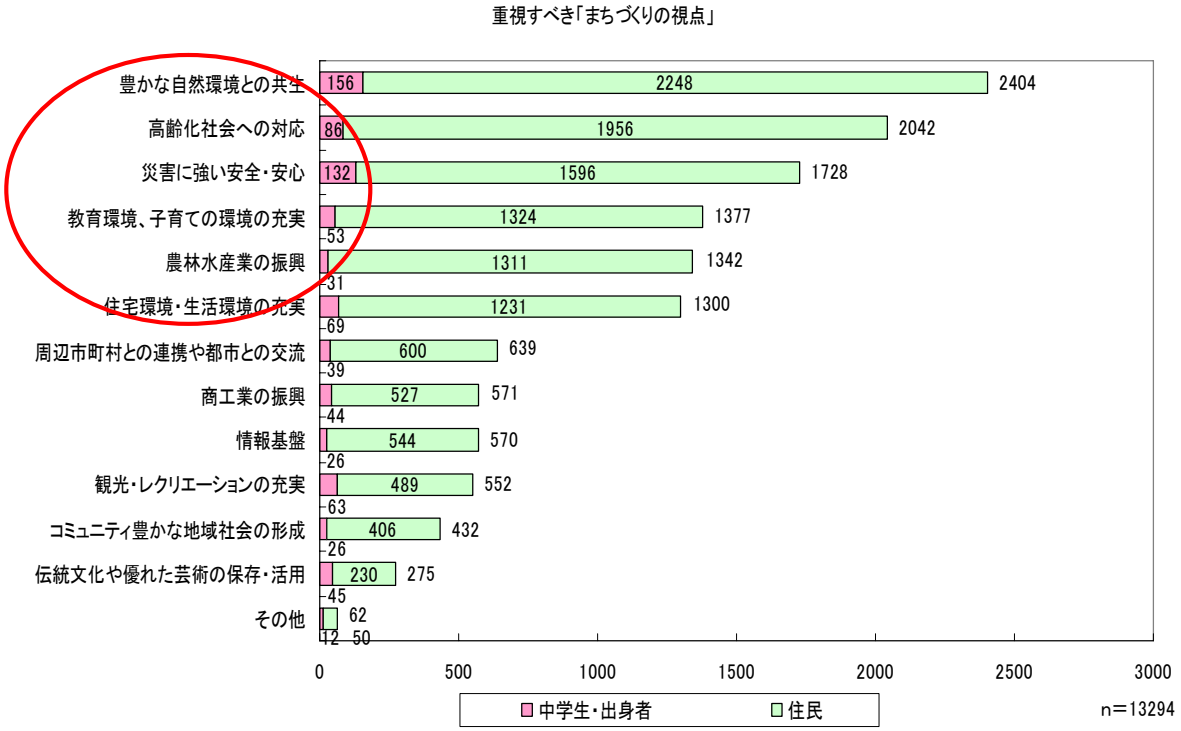
こうした課題を踏まえた上で、以下の項目が定住化の促進重要の具体施策として挙げられています。

○新たな就業の拡大　○若者定住対策の強化
○周辺都市部への通勤利便性の向上　○基幹産業による就業の拡大



③重視すべき「まちづくりの視点」からの分析

中学生・出身者・住民アンケートにおける共通の問いから、次の 6 項目が特に重視すべき「まちづくりの視点」として挙げられます。



特に重視すべき「まちづくりの視点」と具体施策

■豊かな自然環境との共生

※“豊かな自然環境”は、「まちの魅力」として挙げられています。

■高齢化社会への対応

○生活支援サービスの充実　○保健福祉施設の充実
○保健予防対策の充実　など

■災害に強い安全安心

○避難場所・避難路の整備・確保　○自助・共助・公助連携強化
○情報伝達体制の整備　○自主防災組織の育成・強化　など

■教育環境・子育て環境の充実

○女性の就労環境の充実　○公的支援の充実
○働く女性への支援策の充実　など

■農林水産業の振興

○価格や品質の向上　○地産地消の推進
○後継者の育成　など

■住宅環境・生活環境の充実

○公共交通機関の便利さ　○買い物の便利さ
○医療対策の充実　など

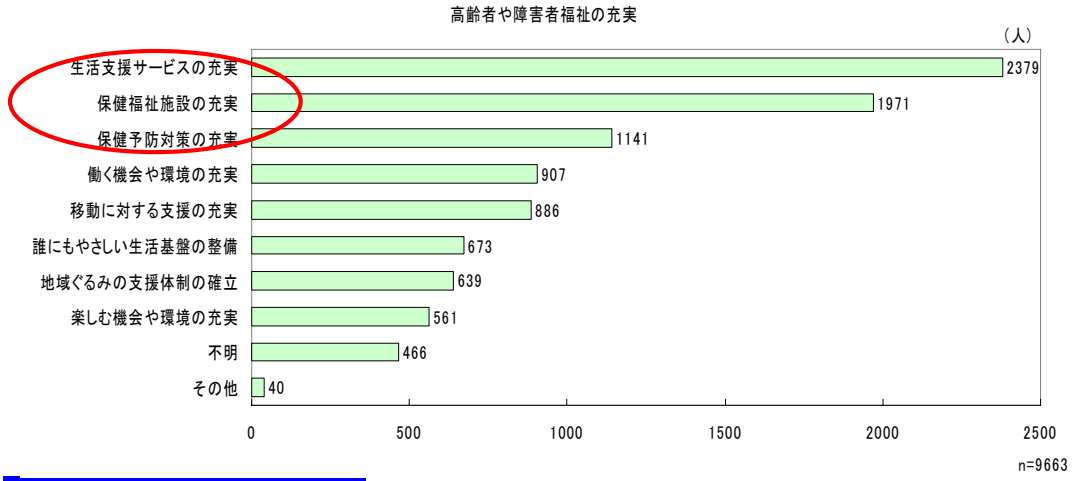
【参考：重視すべき「まちづくりの視点」の具体施策】

重視すべき「まちづくりの視点」と関連する質問項目における上位意見を以下に示します。

■高齢化社会への対応

「高齢者や障害者福祉の充実」にて、以下の項目が重要な具体施策として挙げられています。

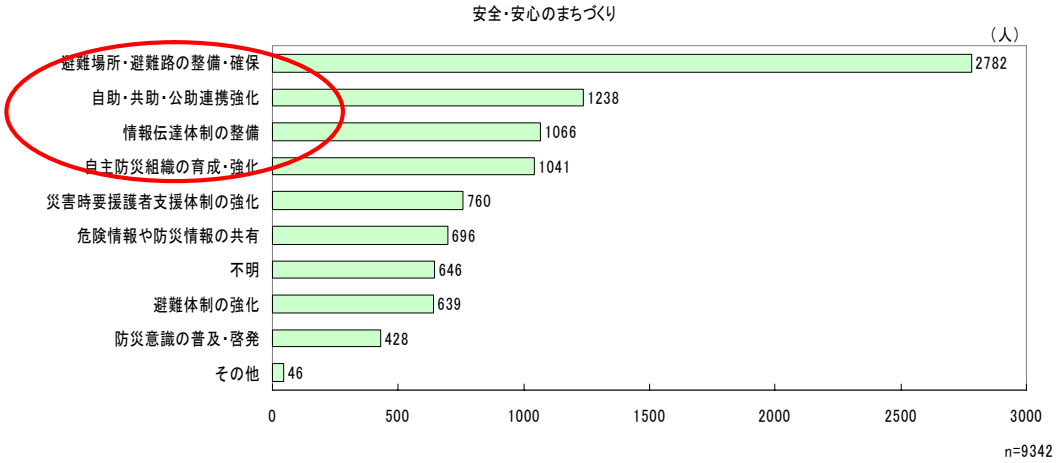
○生活支援サービスの充実
○保健福祉施設の充実
○保健予防対策の充実　　など



■災害に強い・安全安心

「安全・安心のまちづくり」以下の項目が重要な具体施策として挙げられています。南海地震を想定しつつ、こうした具体策を継続・強化していく必要があると考えられます。

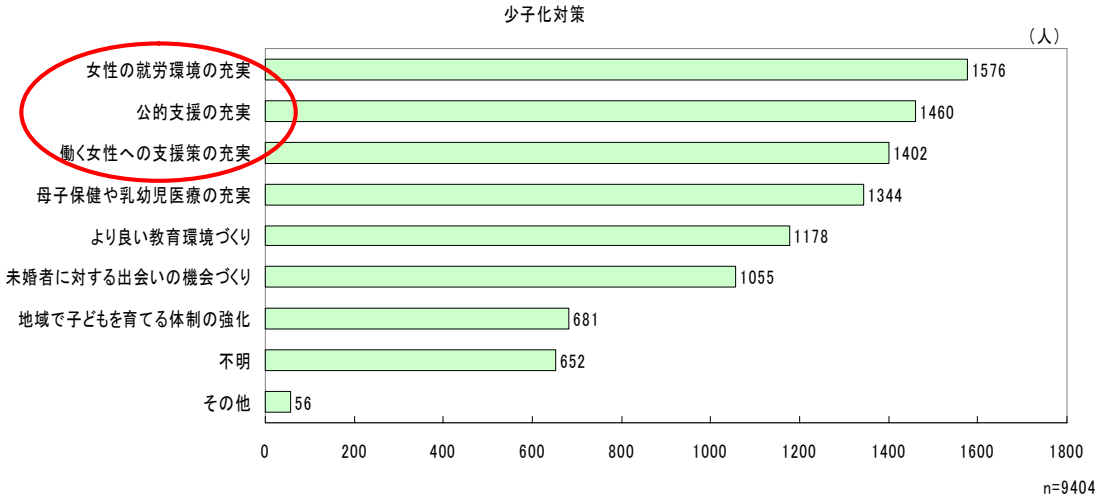
○避難場所・避難路の整備・確保
○自助・共助・公助連携強化
○情報伝達体制の整備
○自主防災組織の育成・強化　　など



■教育環境・子育て環境の充実

「少子化対策」にて、教育・子育てに関連性の深い「少子化対策」にて、以下の項目が重要な具体施策として挙げられています。

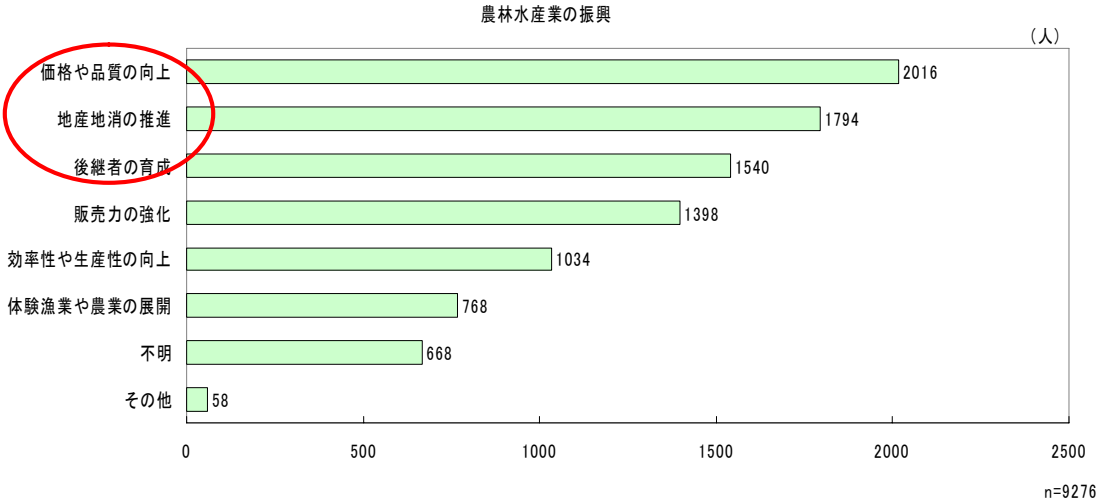
○女性の就労環境の充実
○公的支援の充実
○働く女性への支援策の充実　　など



■農林水産業の振興

「農林水産業の振興」にて、以下の項目が重要な具体施策として挙げられています。

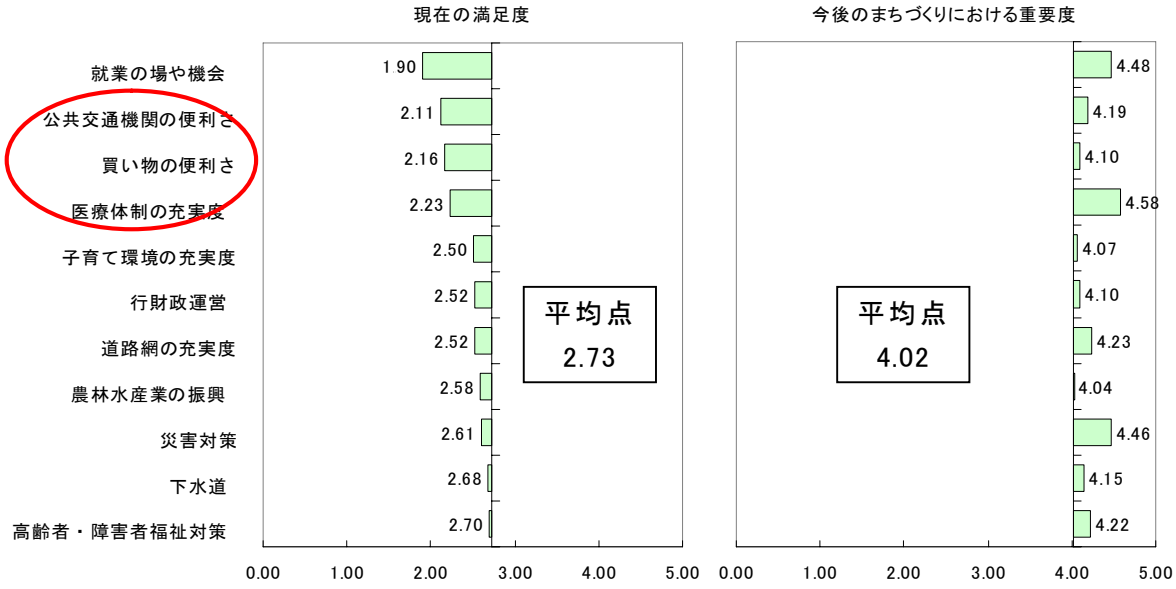
○価格や品質の向上
○地産地消の推進
○後継者の育成　　など



■住宅環境・生活環境の充実

満足度と重要度の分析から、住宅環境・生活環境に充実に関連した「優先度の高い具体施策」として、以下の項目が挙げられます。

○公共交通機関の便利さ
○買い物の便利さ
○医療対策の充実　　など



資料④

（４）データにみる本町の位置づけ（現状分析結果報告）

１）人口・世帯

平成 17 年度の国勢調査による本町の人口は、8,671 人です。昭和 60 年と比較すると、20 年間で約 23.0%減少しています。

世帯数は、平成 17 年が 3,311 世帯であり、昭和 60 年と比較し、約 4.4%減少しています。人口の減少に比べると、世帯数は大きく減少しておらず、1 世帯あたりの人口が年々減少しているため、核家族化の進行や高齢者の一人暮らしの増加が伺えます。

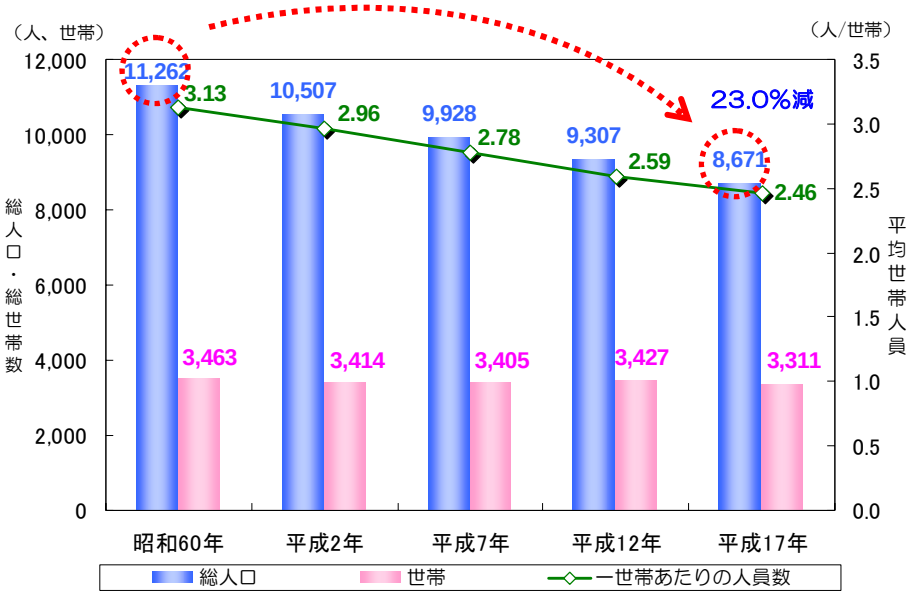


図 1-2　人口・世帯・世帯人員の推移（資料：国勢調査各年）

本町の 3,311 世帯のうち半数以上が核家族世帯で構成されています。また、高齢夫婦世帯、高齢単独世帯の割合は、県平均よりも高く、高齢化の進行が顕著に表れています。

表 1-2　形態別の世帯割合（資料：国勢調査 H17 年）

各世帯	美波町	徳島県
核家族世帯/世帯	55.9%	55.5%
単独世帯/世帯	25.5%	26.8%
高齢夫婦世帯/世帯	19.7%	10.6%
高齢単身世帯/世帯	14.9%	9.4%

年少人口（0～14 歳）、生産年齢人口（15 歳～65 歳）の構成比が共に減少する一方で、高齢人口（65 歳以上）の構成比は増加しており、少子・高齢化の傾向を示しています。昭和 55 年の高齢人口の構成比 17.8%と比較すると、現在は 2 倍以上の構成比となっています。

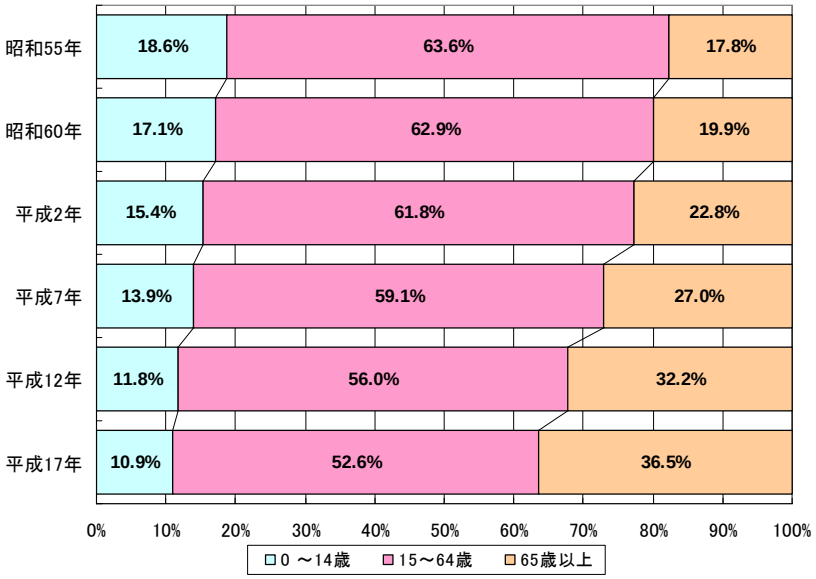


図 1-3　年齢 3 区分別の人口構成の推移（資料：国勢調査各年）

5 歳階級別の人口では、25～29 歳の人口が最も少なく、逆に 70～74 歳の人口が最も多くなっています。高齢人口の構成比の増加は、若者の流出が一つの要因となっています。

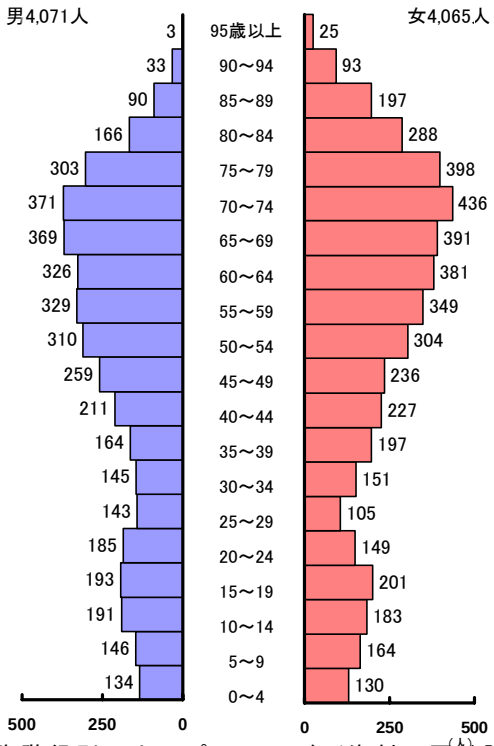


図 1-4　5 歳階級別の人口ピラミッド（資料：国勢調査 H17 年）

２）産業

就業人口については、平成 17 年の就業者数が 3,846 人で、このうち第１次産業 687 人（17.9%）、第２次産業就業者数が 954 人（24.8%）、第３次産業就業者数が 2,205 人（57.3%）となっています。

各産業の就業者数は、町全体の人口の減少に伴い、減少傾向にあります。そのような状況の中、第１次産業就業者の構成比が減少し、第３次産業就業者の構成比が増加する傾向にあり、産業構造の転換がみられます。

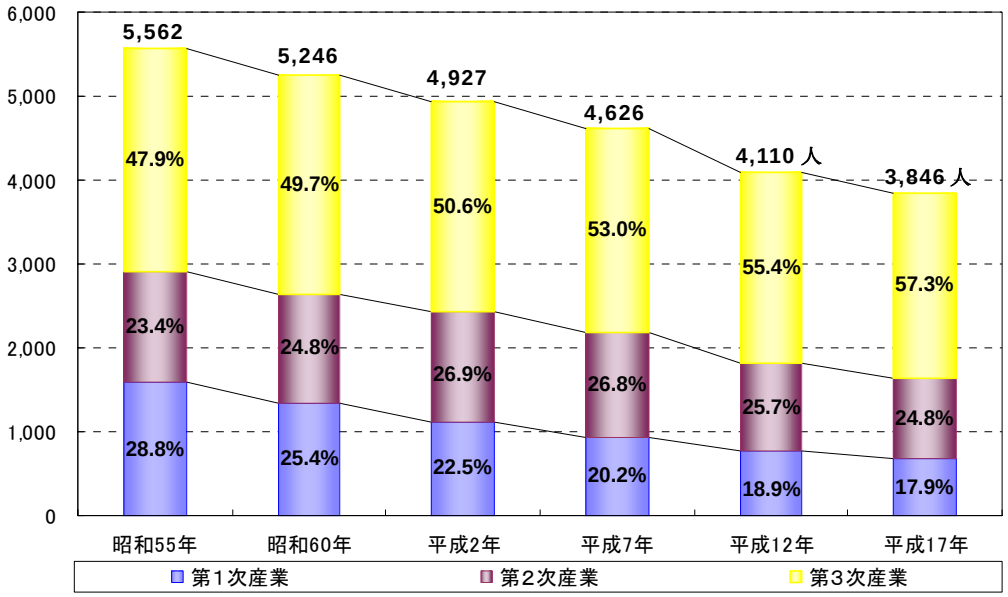


図 1-5　産業分類別就業者数の推移（資料：国勢調査各年）

表 1-3　産業分類別就業者数の推移（資料：国勢調査各年）

	第1次産業		第2次産業		第3次産業		合計
	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)
昭和55年	1,601	28.8%	1,299	23.4%	2,661	47.9%	5,561
昭和60年	1,333	25.4%	1,303	24.8%	2,608	49.7%	5,244
平成2年	1,109	22.5%	1,322	26.9%	2,492	50.6%	4,923
平成7年	934	20.2%	1,241	26.8%	2,448	53.0%	4,623
平成12年	775	18.9%	1,052	25.7%	2,274	55.4%	4,101
平成17年	687	17.9%	954	24.8%	2,205	57.3%	3,846

３）町財政

旧二町の財政状況は、経常収支比率が平成 16 年度ではそれぞれ 95%以上を示しており、財政の硬直化が進行している状況にあり、財政力の強弱を示す財政力指数も徳島県の平均を下回るなど厳しい状況にあります。

表 1-4　町財政状況（資料：市町村財政概要 H16 年）

	（旧）日和佐町	（旧）由岐町	美波町	県平均
財政力指数	0.22	0.13	0.2	0.4
公債費比率	20.8%	15.0%	17.9%	16.3%
経常収支比率	97.9%	96.2%	97.1%	93.5%
普通会計歳出決算額（人口当たり）	669 千円	722 千円	696 千円	616 千円
自主財源割合	24.5%	18.8%	22%	40%
一般財源割合	51.5%	56.4%	54%	54%
投資的経費割合	29.4%	26.3%	28%	21%
市町村民税負担額（人口当たり）	23,367 円	19,755 円	21,561 円	31,937 円

※美波町の値は二町の平均値を表す

【用語解説】

財政力指数　：財政力の強弱を示すものであり、一般財源必要額に対して市税等の一般財源収入額がどの程度確保されているかを測るもので、指数が高いほど裕福な団体となる。

公債費比率　：毎年度の支出全体に占める公債費の額の割合。地方債の発行状況を判断するためのもの。この比率が高いほど、財政の硬直化が進んでいることを示す。

経常収支比率　：税などの一般財源に占める人件費や扶助費、公債費など経常的に支出する経費の割合。この比率が高くなる程、公共施設の整備など投資的な経費に充当する財源の余裕が少なくなり、財政運営が厳しくなる。

自主財源割合　：歳入に占める自主財源の割合。自主財源とは、自主的に収入する歳入。

一般財源割合　：歳入に占める一般財源の割合。一般財源とは、使途が特定されず、どのような経費にも使用することができる財源のこと。（地方税、地方交付税、地方譲与税など）

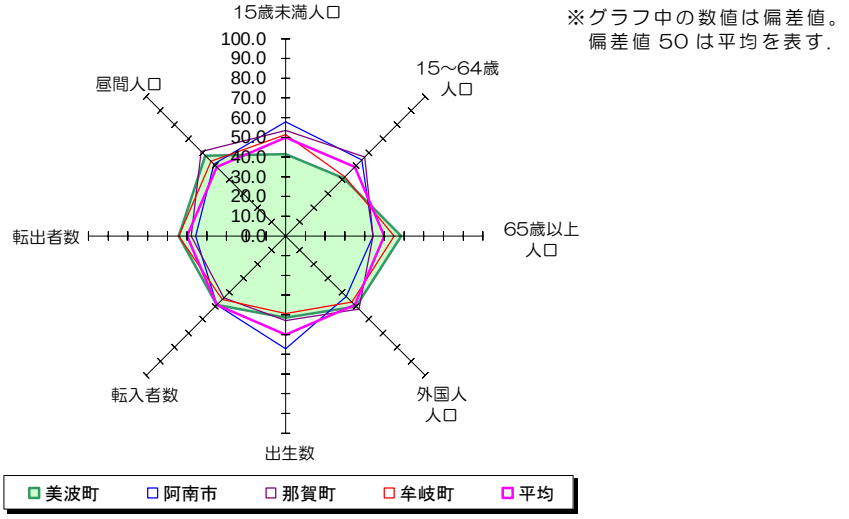
投資的経費割合：歳出に占める投資的経費の割合。投資的経費とは、普通建設事業（補助事業と単独事業に分けられ、国の直轄事業負担金を含む）・災害復旧事業・失業対策事業に係る経費。

４）偏差値による分析

本町の現状を客観的に把握する目的で、各種統計データを用いて、徳島県内における各市町村の偏差値を算出し、周辺の市町と比較した本町の位置づけを分析します。

①人口

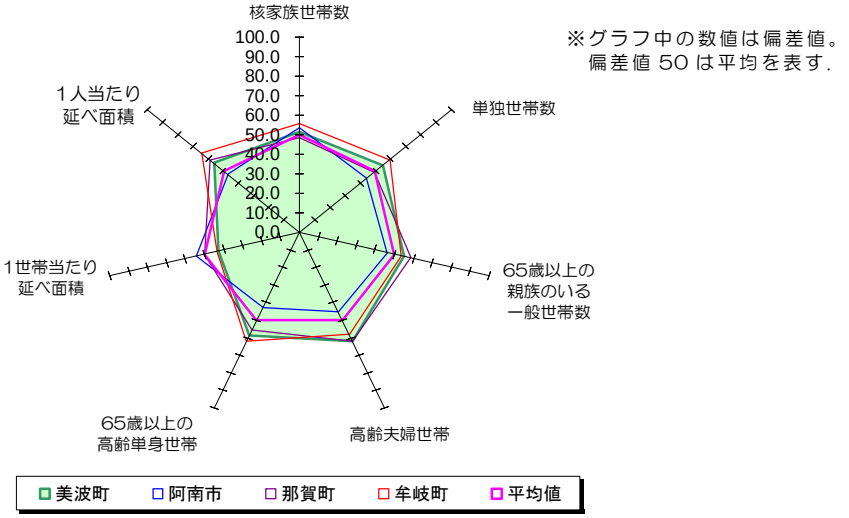
●15 歳未満、15～64 歳の人口割合が低く、高齢者の割合が高い状況にあり、今後、さらに、人口減少・高齢化の進展が予測されます。
●出生数の低さも、人口減少・高齢化に拍車をかけることが懸念されます。
●転入者数、転出者数が周辺の市町と比べて高く、町民の入れ替わりの多さが伺えます。



※上記人口に関する偏差値は、各市町人口当たりの割合。

②世帯

●核家族世帯、単独世帯、65 歳以上の親族のいる世帯、高齢夫婦、65 歳以上の高齢単独世帯の割合が高く、世帯・居住の形態等、本町の取り組むべき課題と捉えることができます。



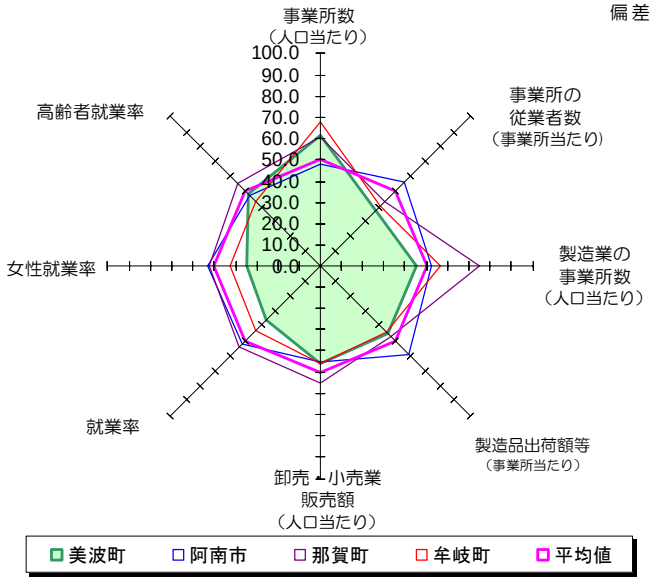
※上記世帯に関する偏差値は、市町世帯当たりの割合である。

③就業

●人口規模に対する事業所の数は多い一方で、1 つの事業所での従業者の数は少なく、就業の場としての潜在性はあるものの就業の機会が低く、アンケートにおける就業の場や機会の満足度の低さ・重要度の高さとの関係性が伺えます。
●就業率（女性就業率を含む）の低さも同様に就業の場・機会の満足度の低さ・満足度の高さに繋がっていると考えられます。

※満足度とは、アンケート調査における満足度

※グラフ中の数値は偏差値。
偏差値 50 は平均を表す.

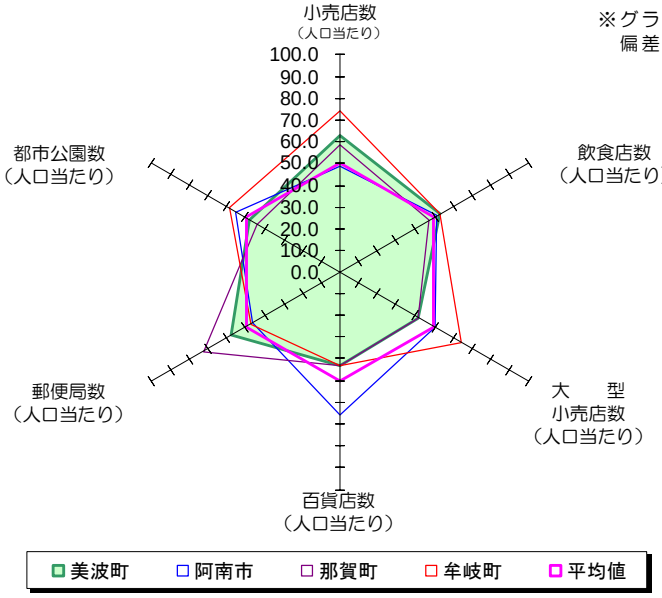


④生活利便性

●人口規模に対する小売店、飲食店数は多いが、大型の小売店や百貨店の数が少なく、アンケートにおける買い物などの利便性への満足度の低さとの関係性が伺えます。

※満足度とは、アンケート調査における満足度

※グラフ中の数値は偏差値。
偏差値 50 は平均を表す.



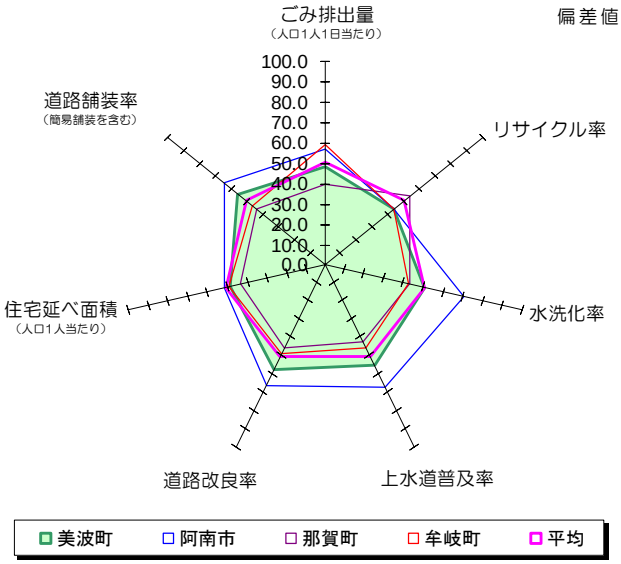
⑤生活環境

●町内における水洗化率、上水道普及率、道路改良率、舗装率等の基盤整備は県平均と比べ上回っています。

●リサイクル率は、周辺の市町と比べて低くなっています。アンケートでは、リサイクル対策に対しての満足度・重要度が高く、今後もリサイクル等の環境対策に取り組み、自然環境の保全に努めていく必要性が伺えます。

※満足度、重要度とは、アンケート調査における満足度・重要度

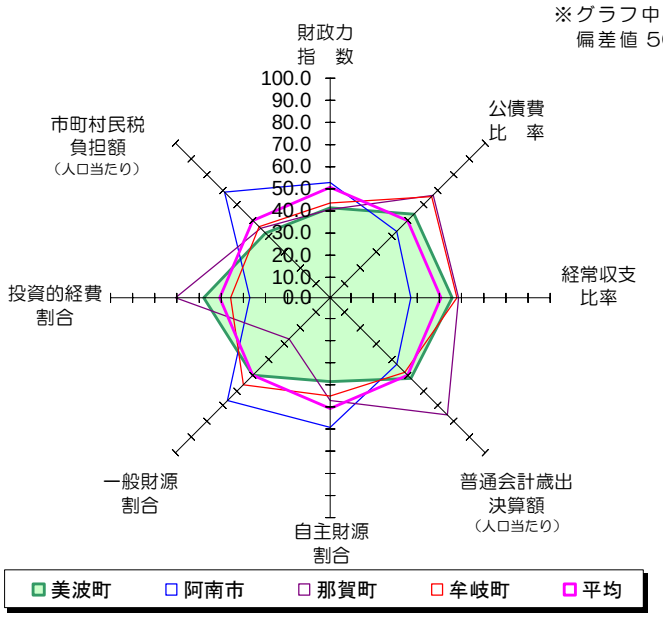
※グラフ中の数値は偏差値。
偏差値 50 は平均を表す.



⑥町財政

●平成 18 年 3 月 31 日に美波町として新生したことを契機に、これまでの行財政体質から脱却し、持続可能な財政構造への転換を図り、分権型社会にふさわしい自主的・主体的な活力あるまちづくり等、様々な課題に取り組んでいく必要があります。

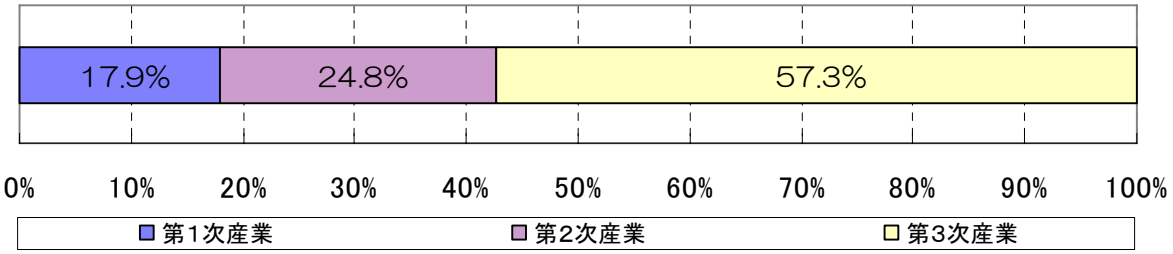
※グラフ中の数値は偏差値。
偏差値 50 は平均を表す.

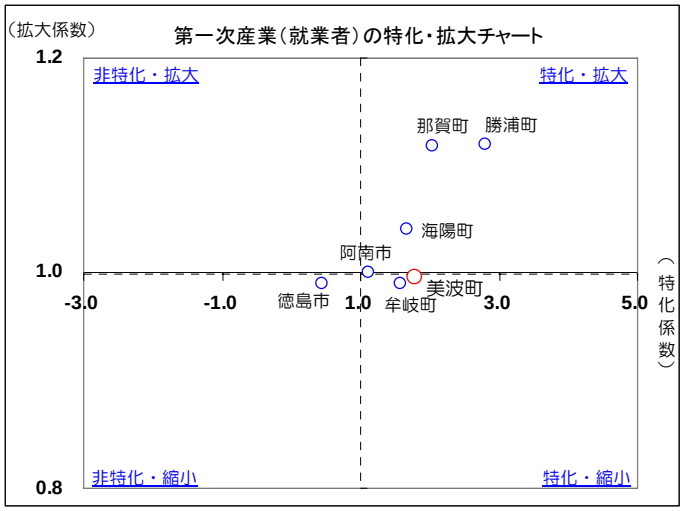


５）レート・シェア分析

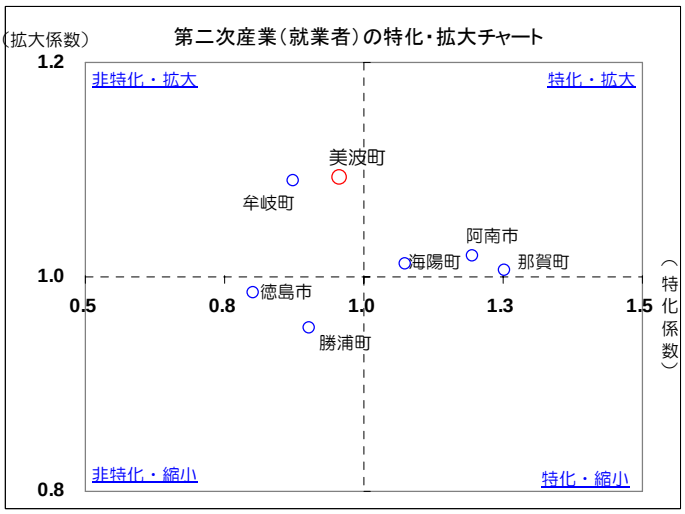
【産業就業者数を用いた産業構造のレート・シェア分析（産業大分類）】

（平成１７年）

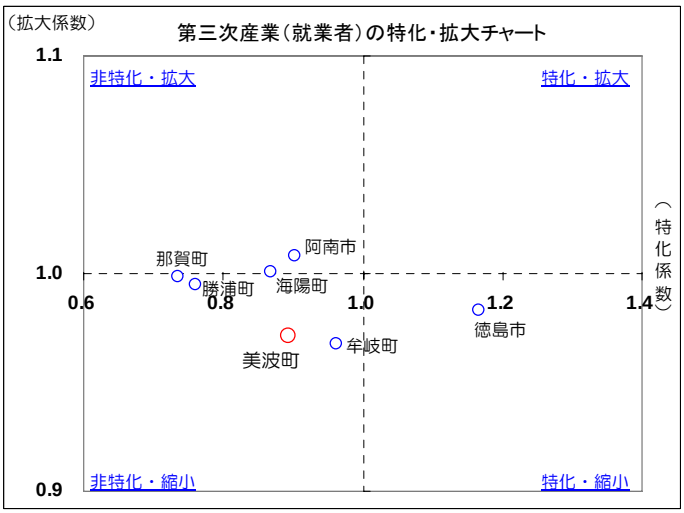




美波町の現状	特化・縮小
考　察（強み・弱み）	○隣接する阿南市と比較し、特化傾向にある。 ○若干の縮小傾向であるが、2000 年～2005 年の５年間で大きな変化はない。



美波町の現状	非特化・拡大
考　察（強み・弱み）	○非特化の状況であるが、５年前（2000 年）と比較し、拡大傾向にある。 ○隣接する阿南市よりも拡大傾向が大きい。



美波町の現状	非特化・縮小
考　察（強み・弱み）	○周辺の市町と比較して、非特化・縮小傾向が大きい。